

## 仕様書

スタートアップ支援部

### 1. 件名

プレシード・シード期の概念実証／実現可能性調査における支援方策に関する調査

### 2. 目的

プレシード・シード期のディープテック・スタートアップは事業化検討の初期段階において、研究開発および事業化計画の双方に不確実性を有している。そのため、概念実証および実現可能性調査においては、検証項目、検証順序について精緻化する必要がある。

本調査は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」という。）の実施するディープテック・スタートアップに対する支援事業において、研究開発の支援に加え、事業化に向けた実現可能性の妥当性を確保するために必要な「検証項目（方法・手順・手段を含む）・検証順序の設計」に関する機能を整理し、既存の伴走支援に組み込むための方策を明らかにすることを目的とする。

### 3. 内容

本調査では、ディープテック・スタートアップの概念実証および実現可能性調査における検証項目および検証順序について、以下の内容について調査・分析を行う。調査の実施にあたっては、過去に NEDO 事業へ参画したスタートアップや専門家等へのヒアリング等により情報収集を行う。

#### （1）文献調査および現状把握

既存の関連制度及び制度設計プロセス、実績に係る既存資料を整理し、資金配分機関の役割の範囲を確認する。

その上で、ディープテック・スタートアップの概念実証および実現可能性調査について、以下の観点から制度上の想定と実際の運用状況の整理を行う。

- ・事業計画の検証方法
- ・検証の項目および検証順序の設定方法
- ・研究開発目標と事業計画の評価方法
- ・事業実施中のモニタリング方法
- ・事業実施中の伴走支援方策
- ・過去 NEDO 事業に参画したスタートアップの背景・動機

#### （2）検証項目および検証順序に関する整理

概念実証および実現可能性調査における検証項目および検証順序について、外部有識者の知見も活用※しつつ、以下の観点から整理する。

- ・検証項目（方法・手順・手段を含む）の設定方法および根拠
- ・検証順序の設計および優先順位付けの設定方法および根拠
- ・技術成立性、市場性、制度適合性等の観点に基づく検証および反映方法
- ・将来に影響を及ぼし得るリスクの検証および反映方法
- ・検証結果を反映した計画変更の方策

特に、プレシード・シード期から次のフェーズに進展する際に影響を及ぼし得る要素について、どの段階でどのように認識され、その検証が行われるべきかについて整理する。

※外部知見の活用について：ヒアリング対象として、以下を想定。

- ・過去 NEDO 事業に参画したスタートアップ（SBIR 推進プログラム等）
- ・分野別の有識者（事業開発、開発設計、製造生産、制度対応等）

### （３）検証項目に対する伴走支援策の整理および成果の取りまとめ

上記（１）、（２）の結果を踏まえ、概念実証および実現可能性調査における検証項目で明らかになった課題に対する支援の在り方を整理し、その結果を取りまとめる。

その際、既存の伴走支援施策に補完的・追加的に組み込むことを想定とした支援策を整理する。

## ４．調査期間

NEDO が指定する日から 2027 年 3 月 31 日まで

## ５．報告書

提出期限：2027 年 3 月 31 日

提出方法：NEDO プロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って作成の上、提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/houkoku.html>

## ６．報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼する場合がある。

## ７．その他

実施事項の内容や進め方及び本仕様書に定めなき事項等については、NEDO と実施事業者が協議の上で決定するものとする。